

長岡工業高等専門学校
令和6年度自己点検評価報告書

令和 7 年 4 月 16 日

長岡工業高等専門学校 自己点検評価改善委員会

令和 6 年度長岡工業高等専門学校自己点検項目

1. 新認証評価基準に基づく点検結果

(1) 1 年間の主な活動

・各委員会は、8 月 30 日までに点検・根拠資料の提出、工程表の作成を行い、自己点検評価改善委員会による 1 次点検と最終点検、フィードバックを行った。

・各委員会は、2 月 28 日までに、再点検・根拠資料の再提出、工程表に基づく改善活動を行い、自己点検評価改善委員会による 1 次点検と最終点検、フィードバックを行った。

(2) 各委員会の実績報告と来年度の改善事項について・・・2 ページ

2. 外部評価結果等に基づく点検結果

(1) 1 年間の主な活動

・各委員会は、8 月 30 日までに計画策定を行い、自己点検評価改善委員会からのフィードバックを行った。

・各委員会は、10 月 30 日までに中間報告を行い、自己点検評価改善委員会からのフィードバックを行った。

・各委員会は、2 月 28 日までに実績報告を行い、自己点検評価改善委員会からのフィードバックを行った。

(2) 指摘事項に対する実績報告と自己点検評価改善委員会からのフィードバックについて・・・3 ページ

・青文字で表記した内容は、過年度に既に改善済みであるが、今年度も点検を行ったものの。

組織名	新認証評価基準の観点前について	規程改正の必要性について	改正した規程の名称	改正の概要について	新設した規程の名称	新設した規程の概要	運用の見直し、改善を行った点(1/5)	運用の見直し、改善を行った点(2/5)	運用の見直し、改善を行った点(3/5)	運用の見直し、改善を行った点(4/5)	運用の見直し、改善を行った点(5/5)	令和7度中に改善すべき事項
企画運営会議	割当あり	改正の必要なし					会議の効率化のため、将来計画委員会を廃止し、企画運営会議に統合した。					なし
危機管理室会議	割当あり	改正の必要なし					危機管理マニュアル、海外渡航安全管理マニュアルを改訂し学内周知するとともに、本校ホームページで公開した。	緊急時の初動対応マニュアルを編纂し、学生・教職員に配布するとともに、本校ホームページで公開した。	地震・台風・洪水・大雪等の自然災害、感染症の流行等が発生した場合に、学生及び教職員の安全確認を迅速かつ確実に実施するため、「長岡工業高等専門学校安否情報システム（ANPIC）」を導入した。	ANPICを活用し安否確認訓練を実施した。		なし
入学試験委員会	割当あり	改正の必要なし										
教員人事委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	なし				現行規程改正のための情報収集を行った。					現行規程の改正を行う。
自己点検評価改善委員会	割当あり	改正・新設の必要あり		(1)学則 (2)学科「三つの方針」 (3)専攻科「三つの方針」 (4)自己点検評価改善委員会規程 (5)自己点検、評価及び改善に関する実施要項 (6)技術者教育プログラム部会規程 (7)外部有識者会議規程 (8)組織・運営規程	(1)長岡工業高等専門学校専攻科の目的を規定するための改正を行った。 (2)三つの方針に規定する「学科の教育方針」は、「教育理念・目標並びに養成すべき人材像・教育上の目的等を定める規程」において「学科の養成すべき人材像・教育上の目的」として規定しているため、削除した。 (3)三つの方針に規定する「専攻科の教育方針」は、「教育理念・目標並びに養成すべき人材像・教育上の目的等を定める規程」において「学科の養成すべき人材像・教育上の目的」として規定しているため、削除した。 (4)令和6年度自己点検に基づき、委員会の目的、組織、所掌事項、部会に関する改正を行った。 (5)点検手順の明確化及び、規定内容を補足するための改正を行った。 (6)専攻科委員会の部会から、自己点検評価改善委員会の部会に変更するとともに、教学マネジメント実施規程との整合性向上を図るための改正を行った。 (7)任務及び会議の開催について規定内容を補足するための改正を行った。 (8)センター、委員会等を令和7年度体制に沿って明記し、各委員会等の連携に関することを規定するための改正を行った。	(1)5年間の本科教育に対して、国際的な教育の質保証の枠組みである「国立高専教育国際標準（KIS）部会規程」制定 (2)機関別認証評価部会規程 制定 (3)外部有識者会議部会規程 制定	進捗管理方法の改善を行い、業務効率化につなげた				工程に沿って改善を進める	
教務委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	(1)長岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等による単位修得の認定に関する規程 (2)長岡工業高等専門学校教学マネジメント実施規程 (3)長岡工業高等専門学校の開設授業科目、その単位数及び修得単位数を定める細則 (4)長岡工業高等専門学校AIR Techエンジニア育成プログラムに関する規程 (5)長岡工業高等専門学校履修及び学業成績の評価並びに進級及び卒業の認定に関する規程 (6)長岡工業高等専門学校研究生規程 (7)長岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等による単位取得の認定に関する規程	(1)①令和6年度入学者に係る教育課程の改正に伴う所要の改正等を行った。②在籍しない入学年度の学生に係る認定対象科目の整理を行った。 (2)技術者教育プログラム「生産システム・環境工学」における教学マネジメントの実施体制等を整備する改正を行った。 (3)一般科目「国際関係学演習」の廃止に伴い、所用の改正を行った。 (4)AIR Techエンジニア育成プログラムにおいて、数理・データサイエンス・AIの応用基礎レベルの知識・技術の修得を目的とする新たなコースを設けるため、所要の改正を行った。 (5)①教育課程を編成する科目のうち、進級単位にはならない科目の成績評価を規定する改正を行った。②成績評価に関する学生からの異議申立ての機会を規定した。 (6)本校が受け入れる短期留学生の学生身分を研究生とするための改正を行った。 (7)一般財団法人統計質保証推進協会が実施する統計検定の結果を単位修得の認定とするため、所要の改正を行った。		【観点2-1-①】(1) 様式に沿って学校の目的等についてとりまとめ、本校の規程改正の議論に繋がった。 【観点5-4-③】(1) 現カリキュラム、新カリキュラムに対して授業形態の割合を学年別・算出するなど、現状分析を行った。	【観点5-5-①】(3) ガイダンス実施要綱を作成し、要綱に沿ってガイダンスを実施した。 【観点5-5-①】(4)特別修学支援に関する手続きのフローを作成し、手順に沿って確認を行った。	【観点5-6-②】(1) 在学生アンケート、卒業生・修了生アンケート等における質問項目や実施時期についての改善案が企画運営会議で承認され、新たな運用を開始した。 【観点5-6-②】(2) 追試験、単位再評価試験の成績評価方法の定めについて再確認した。	【観点5-6-③】(1) 試験問題提出作業の簡便化を図るとともに、比較対象となる試験問題のデータベースを構築した。データベースと試験チェックシートを活用することで、点検作業時間を大幅に削減し、全数チェックを実現した。 【観点5-6-③】(2) 保護者アンケートの質問項目、実施形式を改善して実施した。卒業生・修了生アンケートにおける質問項目や実施時期についての改善案が企画運営会議で承認され、新たな運用を開始した。	(1) 学校教育法施行規則の一部改正に関する対応を行った。 (2) 教務委員会において、新認証評価基準に関する改善に対するマスタースケジュールを作成し、プロジェクトマネジメントの観点から計画的、継続的な取組となるような運用体制の工夫を施した。	(1) 編入学生、社会人学生の学習及び生活に対する支援体制の整備 (2) 非常勤講師を対象とした各種アナウンス方法の見直し	
学生支援委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	学則第39条第1項に規定する学生表彰に係る学科卒業生の表彰選考基準	功労賞の対象者の明確化		関係信越地区文化発表会の対応	部室の鍵貸出	部活動での顧問による大会引率の負担軽減	部活動における大会参加と活動方針	クラブ顧問についての基本原則		
業務委員会	割当あり	改正の必要なし				学生寮の設備の更新や修繕内容について定例の業務委員会で報告し、委員会として学生寮設備の状況を把握するように見直しした。						
専攻科委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	(1)学則、(2)専攻科委員会規程、(3)専攻科「三つの方針」、(4)長岡高専専攻科授業科目の履修に関する規程	(1) 専攻科の目的を追加した。 (2) 技術者教育プログラム部会を専攻科委員会の部会から、自己点検評価改善委員会の部会に設置し直した。 (3) 専攻科「三つの方針」における各専攻科の教育方針は、「教育理念・目標並びに養成すべき人材像・教育上の目的等を定める規程」との重複を避けるための修正を行った。 (4) 専攻科授業科目の履修について第5条の2において、「学業成績の評価への異議申し立て」の条文を追加した。		【観点6-4-②】 】に関して、学業教育到達目標と科目の紐づけをより明確にするようウェブシラバス作成要領を整えた。	【観点6-4-②】に関して、基礎学力不足の学生に対する配慮（改善の対応）・オフィスアワーを専攻科向けにも周知した。	【観点6-6-③】に関して、専攻科の成績評価についての要領を作成した。	長岡高専自己点検【様式3 外部評価結果等】に基づく対応。 R3外部有識者会議指摘事項に対する対応として、適度な科目履修等のアドバイスや、科目構成の見直しによる無理のないカリキュラムの構築を目指すことについて、専攻科生の適度な科目履修を防止するため、履修ガイダンスを実施し、専攻科生に履修アドバイザーになる制度を導入している。履修状況がわかるような単位計算・達成度確認エクセル表を長岡高専独自に作成し、専攻科生の履修へのサポート体制を強化している。専攻科行事の年度計画を作成し、事前に公表するとともに、修得単位の間中チェックから無理のない履修につなげている。	【様式3 外部評価結果等】に基づく対応 R04 JABEE受審時指摘事項に基づき、専攻科間のシラバスを統一し、仕組みを点検する仕組みを整備した。	・入学定員と実入学者数把握を継続し、教育効果を引き続き検証する。	
国際交流推進センター委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	(1)長岡工業高等専門学校国際交流推進センター規程 (2)長岡工業高等専門学校国際交流推進センター委員会規程	(1)：センターの下に部門を2部門組織した。 (2)：委員会を構成するメンバーを変更した。								新体制による国際交流推進センターの運用、新体制下における国際交流推進センター委員会の運用。
地域創生教育研究推進室	割当あり	改正・新設の必要あり	1. 令和6年4月17日長岡工業高等専門学校オープンソリューションセンター利用細則 2. 令和6年8月20日 競争的スペースの運用に関する細則 3. 令和6年10月16日 (1)教育研究施設の有効活用に関する規程 (2)競争的スペースの運用に関する細則 (3)オープンソリューションセンター規程 4.長岡工業高等専門学校の競争的研究費の直接研究費からの研究以外の業務代行に係る経費の支出（バイアウト制度）に係る実施要項(2025年3月予定)	1. 研究設備・機器的学外者への共用を可能とするため所要の改正を行った。 2. 雪水低温研究施設1階のスペースを新たに競争的スペースとすることに伴う改正を行った。 (1)(2)令和6年7月17日付け将来計画委員会廃止に伴う改正 (3)研究チーム設置に関する条項の追加 4.対象業務が「授業等の実施、準備の教育活動及び付随する事務」とされており、その他学生寮の運営や部活動の指導等の代替可能な業務については現在対象とされていない。このため、対象業務を拡大する改正を行うものである。		現時点では無し	現時点では無し	現時点では無し	現時点では無し	現時点では無し	現時点では無し	
高専教育高度化戦略室	割当あり	改正・新設の必要あり	なし			新認証評価基準に基づき、所掌の点検を行い、必要な作業工程を組んで対応した。	みらいテラスの統計データに基づき学習到達度の確認を行った。					手続きフローの整理を行う。
図書館委員会	割当あり	改正の必要なし				利用者の要望等をふまえ、開館時間の見直しを行った。	「図書館だより」の発行をPDFでの発行に変更した。					
総合情報処理センター委員会	割当なし											
広報戦略室会議	割当なし											
安全衛生委員会	割当あり	改正・新設の必要あり	なし			施設・設備の安全衛生管理体制について見直しを行った。						施設・設備に関する現行規程の改正
ハラスメント防止委員会	割当あり	改正の必要なし				なし						現行規程の点検等
情報公開委員会	割当あり	改正の必要なし				長岡高専ホームページの公開情報について点検と修正を行った。						公開情報の定期的な点検を行う
技術者教育プログラム部会	割当あり	改正・新設の必要あり	(1)技術者教育プログラム部会規程 (2)教学マネジメント実施規程 (3)専攻科委員会規程	(1)技術者教育プログラムの教学マネジメントについては、長岡工業高等専門学校教学マネジメント実施規程で定めた。 (2)技術者教育プログラム「生産システム・環境工学」の教育課程に対する教学マネジメントの実施体制・手順を追加した。 (3)技術者教育プログラム部会を自己点検評価改善委員会の部会に設定し直し、専攻科委員会の部会から削除した		・専攻科におけるwebシラバス作成手順を作成した。						
学生相談室	割当あり	改正・新設の必要あり				規程改正に向けた検討を行った。 キャリア支援室は就職及び進学に関連する種々の指導や支援を目的としており、就職支援に「起業」も含むと解釈しました。また、キャリアデザイン科目に関しては教務委員会が担当しており、キャリア支援室の規程に盛り込む必要はないと判断いたしました。明確な連携体制を記載しておりませんが、柔軟な対応ができるように現行のまま(関係教職員間で共有し、学内の連携を円滑にするとともに)で運用してまいります。					現行規程の改正を行う。	
キャリア支援室	割当あり	改正の必要なし										
総務課	割当あり	改正・新設の必要あり	なし			施設・設備の安全衛生管理体制について見直しを行った。						施設・設備に関する現行規程の改正
学生課	割当あり	改正の必要なし				保健指導及び教育補助者に対する研修について情報収集を行った。						・保健指導について工程に沿って改善を進める。 ・教育補助者に対する研修について工程に沿って改善を進める。

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
企画運営会議	指摘事項	－	－	－	駐車スペースが不足している。	－
	実績報告 2/28迄	－	－	－	コンテナ跡地に教職員駐車スペースを 4 台確保し、その他に来客用スペースを 4 台分確保した。	－
	フィードバック	－		－	教職員用、来客用に各々 4 台の駐車スペースの確保が確認できた。	－
教務委員会	指摘事項	観点 1－1－④ 「準学士課程の一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている」について、「入学者選抜の基本方針」の明文化及び試験問題のチェックに関する取組が十分に改善されているとはいえない。	③ -1 コロナ禍によって生じたオンライン授業のあり方、来日できていない留学生への対応などについて配慮・改善の要求あり。	2.1 【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】	－	－
	実績報告 2/28迄	・令和 6 年度中に実施した試行を踏まえ、令和 7 年度に向けてチェック体制を確立するとともに、関連規程の作成に着手する。	Teams を活用した講義のライブ配信を実施。	・MCC到達目標と科目内容の整合性についての確認を実施した。	－	－
	フィードバック	令和 6 年度試行に全教員・非常勤講師が対応していることを確認できた。関連規程の作成をお願いします。	実績報告に記載の内容が確認できた。	点検したことを確認できた。		
	指摘事項	観点 5－3－① ○ 一部の授業科目において、複数年度にわたり同一の試験問題が出題されており、成績評価に関する規定、シラバス内の成績評価の方法等とは異なる成績評価が行われている。	－	3.2 【MCCからみた卒業生の到達度点検】	－	－
	実績報告 2/28迄	・令和 6 年度中に実施した試行を踏まえ、令和 7 年度に向けてチェック体制を確立する。 ・「評価方法・割合シート」と「シラバスの評価記述」の整合性の点検体制についての検討は、令和 7 年度に繰り越すものとする。	－	・学習・教育到達目標の到達レベルに関して検討を行った。	－	－
	フィードバック	同一問題に対するチェック方法の確立が確認できた。引き続きR7年度に予定の「シラバス評価との整合性の点検体制」をお願いします。		点検・検討の状況が確認できた。		
専攻科委員会	指摘事項	－	②-3 専攻科については、適度な科目履修等のアドバイスや、科目構成の見直しによる無理のないカリキュラムの構築を目指す。	－	－	教育改善

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
専攻科委員会	実績報告 2/28迄	—	R3外部有識者会議指摘事項に対する対応として、適度な科目履修等のアドバイスや、科目構成の見直しによる無理のないカリキュラムの構築を目指すことについて、専攻科生の過度な科目履修を防止するため、履修ガイダンスを実施し、専攻科生に履修アドバイザーになる制度を導入している。履修状況がわかるような単位計算・達成度確認エクセル表を長岡高専独自に作成し、専攻科生の履修へのサポート体制を強化している。専攻科行事の年度計画を作成し、事前に公表するとともに、修得単位の間中チェックから無理のない履修につなげている。次年度も引き続き、その確認作業と改善のための仕組みの定着を図る予定である。	—	—	・専攻科間でシラバスを統一済み。 ・PDCAサイクルについては、教学マネジメント実施規程で定めた。 ・次年度に向けて、P D C Aサイクルの定着を目指す予定である。
	フィードバック		履修科目へのアドバイザー制度や、履修サポート体制、カリキュラム検討の実施が確認できた。			特別実験や特別研究のシラバス統一性について確認できた。仕組みを点検できる機能をPDCAの改善から対応したことが確認できた。今後のPDCA定着も実施可能と判断される。
	指摘事項	—	—	—	—	教育改善
技術者教育プログラム部会	実績報告 2/28迄	—	—	—	—	・教学マネジメント実施規程を改正し、技術者教育プログラムのPDCAを明記した。 ・技術者教育プログラム部会を、専攻科の部会から、自己点検評価改善委員会の部会に設定し、点検機能の強化を行った。
	フィードバック					仕組みの機能を点検できるように規程を改正し、教育改善のためのPDCAを明記したことを確認できた。
学生支援委員会	指摘事項	—	③-2 学生ごとのニーズや個性に合わせた、きめ細かな対応や支援体制の構築を検討	—	—	—

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
学生支援委員会	実績報告 2/28迄	—	合理的配慮やカウンセラーの配置、いじめ防止研修、キャリア支援を通じて、きめ細やかな対応や支援体制を構築している。	—	—	—
	フィードバック		学生のニーズや個性に合わせて種々の支援体制を整理して周知していること、また研修等で教職員の認識を深めていることを確認した。			
高専教育高度化 戦略室	指摘事項	観点 1－1－④ 前回の機関別認証評価で指摘された改善を要する点のうち、「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）を構成する「入学者選抜の基本方針」が明文化されていない」	①-1 引き続き、改善を推進。特に3つのポリシー（アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー）の改定作業を進めていく。	1.1 【育成する人材像の設定と公開・周知】	—	—
	実績報告 2/28迄	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	高専教育高度化戦略室で工程表を検討し、自己点検評価改善委員会に提出するとともに、具体的な手順の検討を進めている。引き続き工程に沿って対応を進める。	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	—	—
		R3年度対応済み ・令和3年11月18日に、「長岡工業高等専門学校学科 三つの方針」及び「長岡工業高等専門学校専攻科 三つの方針」を改正し、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）内に「入学者選抜の基本方針」を明文化した。 【根拠資料・データ】 資料 1-01_「学科『三つの方針』」 資料 1-02_「専攻科『三つの方針』」		R5年度対応済み 1.1 ○「学校として育成する人材像」を「長岡工業高等専門学校教育理念・目標並びに養成すべき人材像・教育上の目的等を定める規程」に明文化し（令和6年3月11日）、学生教職員への周知を図った。 ○育成する人材像に対する社会ニーズや、学生からの要望については、「教学アセスメントプラン」に基づき実施する各アンケートにより意見聴取し、「教学マネジメント実施規程」に基づき教育改善に活用する。		
	フィードバック	実績報告に記載の内容が確認できた。	3つのポリシーに関して必要な改定を進めており、工程表は自己点検改善委員会に提出済みであることを確認できた。今後、具体的な手順の提示をお願いします。	実績報告に記載の内容が確認できた。		
	指摘事項	準学士課程における教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）と卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性について十分とはいえない。（観点 1－2－②）	②-1 補助事業により新システムを導入し、データの一元管理等を通じて業務負担軽減を目指す。	1.2 【カリキュラム・ポリシーに基づく教育課程、科目の設計と開示】	—	—

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
高専教育高度化 戦略室	実績報告 2/28迄	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	みらいテラスを活用し、データの一元管理 を行っている。	計画に沿って対応を進めている。	－	－
		R4年度対応済み ・令和4年度、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）と 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性向上のため、長岡工業 高等専門学校学科「三つの方針」一部改正（令和4年7月13日）。				
	フィードバック	実績報告に記載の内容が確認できた。	新システムによるデータの一元管理の実施 を確認できた。これにより業務負担軽減は 確実と期待される。	カリキュラムポリシーと教育目標に関する 見直しと整理がすすんでいることを確認で きた。		
	指摘事項	準学士課程及び専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリ シー）において、 入学者選抜の基本方針が明示されていない。（観点1－2－③、観点1－2－⑥）	－	4.1 【内部質保証システムの構成・実施と開 示】	－	－
	実績報告 2/28迄	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	－	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	－	－
		R3年度対応済み ・令和3年度、選抜方法追記に伴うアドミッション・ポリシー改正のため、長岡工業 高等専門学校学科「三つの方針」一部改正（令和3年11月18日）。		R4年度対応済み ○KIS実地審査時には原案の段階であった 教学マネジメントに関する規程は、令和5 年4月1日施行の「教学マネジメント実施 規程」として定められた。 ○教学マネジメントのCheck、Actionを担 う高専教育高度化戦略室は、企画運営会議 と構成員が異なっており、教育の点検、改 善を行うための組織的な内部質保証として 取り組みがなされるよう組織建てを工夫し た。		
	フィードバック	実績報告に記載の内容が確認できた。		実績報告に記載の内容が確認できた。		
	指摘事項	－	－	4.2 【継続的改善】	－	－
	実績報告 2/28迄	－	－	R6年度 ■確認・実施済み □追加改善あり（内容は以下に黒字追記）	－	－
				R4・5年度対応済み ○組織的な内部質保証のために、教学マネ ジメント実施規程を整備し、教学アセスメ ントプランに基づく統計データの収集と、 データに基づく教育改善を行うための組織 体制を整備し、点検と改善を実施してい る。		
	フィードバック			実績報告に記載の内容が確認できた。		

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
地域創生教育研究推進室	指摘事項	－	①-2 研究・社会連携分野では、対象科目に全学科から学生が参加するよう制度整備、および働きかけを強める。	－	プロジェクトの増加と相まって非常勤職員の雇用が増え、総務課の事務負担が増えている。	－
	実績報告 2/28迄	－	企業課題の多様性を確保するため、さまざまな業態の企業から課題を募集し、全学科の学生が参加しやすい環境を整備した。その結果、令和6年4月時点では64社が参画しており、複数の学科の学生が自分の専門や興味に合わせて企業課題に取り組むことが可能となっている。	－	間接経費を財源として7月に人事係に外部資金のスタッフ 1 名を増員した。	－
	フィードバック		全学科から学生が参加できる課題を提示し、環境整備したことを確認できた。		総務課人事係にひとり増員が確認できた。勤怠管理業務の分散軽減が期待される。	
	指摘事項	－	②-2 企業との連携科目については、科目のテーマを卒業研究テーマにできるような仕組みの構築を行う。	－	－	－
	実績報告 2/28迄	－	プログラム研究基礎セミナー（5年）、プログラム研究特別セミナーⅠ（専攻科1年）、プログラム研究基礎セミナーⅡ（専攻科2年）およびエンジニアリング演習（専攻科1年）において、企業から提示された5つの課題に取り組んだ。本取組を通じて学生は課題解決力を養うとともに、専攻科生が実践的な指導経験を積むことで、卒業研究における教員の指導負担を軽減する効果が期待される。	－	－	－
	フィードバック		企業と連携する課題型授業を推進する中で、研究テーマとなり得る課題を抽出できる環境であることが確認できた。企業の課題と研究テーマをマッチングできる場であると確認できた。			
広報戦略室	指摘事項	－	④ 広くメディアに取り上げてもらい本校の知名度を上げるため、プレスリリースを今後も積極的に行っていく。	－	－	－
	実績報告 2/28迄	－	学生の活躍をはじめトビックスは適時ホームページにアップしている。また、プレスリリースについても機構を通して行っている。	－	－	－
	フィードバック		本学の広報活動は、プレスリリースも活用して展開していることが確認できた。			
	指摘事項	観点 3－1－② ○ 教職員の I C T 環境の満足度を把握し改善するための取組が十分とはいえない。 （観点 3－1－②）		－	－	－

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
総合情報処理センター	実績報告 10/30迄	R6年度 ☐確認・実施済み ☒追加改善あり（内容は以下に黒字追記） 令和 6 年度からは、学生アンケート、教職員アンケートとして、「教育の質保証を確保するための環境」についての設問を設け、引き続き定期的にモニタリングを実施し、改善につなげることにしている。 R4- 5 年度対応済み 令和4年度第4回総合情報処理センター委員会が開催され、令和4年度ICT利活用状況・満足度アンケート結果について審議された。その結果、学生から校内無線LANの接続状況と通信速度へ改善要望が寄せられているものの、教員・職員のICT環境への満足度は標準を上回っていること、ICT環境が有効に活用されていることがわかった。令和4年度後半に実施予定の高専統一ネットワーク工事後に改善状況と課題をアンケートにより改めて把握することになった。 主に以下のICT 環境の改善がなされた。 （1）高専統一ネットワークが令和 4 年度中に更新され、仮運用が開始された。従前、1Gbps の通信速度をもつ校内ネットワークであったが、更新後、外部接続や建屋間については 10Gbps の通信速度に拡充された。また、Wifi4 や Wifi5 から Wifi6 に対応したアクセスポイントに更新され、従前よりも高速で安定した通信が可能になった。校内無線 LAN については IEEE802.1X 認証による接続に切り替わり、情報セキュリティの強化がなされた。 （2）学術情報ネットワークが SINET5 から SINET6 に更新された。SINET6 では長岡データセンターが新設される等、従前よりも快適なアクセス環境が実現された。 令和 5 年度に以下の ICT 環境の改善がなされた。 （1）新しい高専統一ネットワークの本格運用が開始された。 （2）老朽化したプロキシサーバを停止してプロキシサービスを終了することにし、本校ファイアウォールにその機能の一部を担わせることでネットワーク運用の安定化を図った。 （3）eduroam の運用を開始し、教職員・学生の本校内外でのネットワーク利用の利便性が高まった。 （4）令和 4 年度 ICT 環境利活用状況・満足度アンケート調査結果を受け、本校の無線 LAN アクセスポイントを 24 箇所増設して利便性が高められた。 上記のICT環境の改善後に、令和4年度と同様のアンケート項目を用いてICT利活用状況・満足度アンケート調査が実施された。アンケート結果についての審議を行うために令和5年度第3回総合情報処理センター委員会が3月4日から3月12日の間にメール審議にて実施された。その結果、ICT機器の更新状況を踏まえて令和5年度のアンケート調査における満足度項目において回答者の平均が5段階評価の3（普通）以上であり、さらに令和4年度の同様の調査よりも改善していることが分かった。以上のことから同委員会において「教職員のICT環境の満足度を把握し、ICT環境が改善した。」	—	—	—	
	フィードバック	実績報告に記載の内容が確認できた。				
自己点検評価改善委員会	指摘事項	—	—	4.1 【内部質保証システムの構成・実施と開示】	—	改善の確認
	実績報告 2/28迄	—	—	R6年度 ☒確認・実施済み ☐追加改善あり（内容は以下に黒字追記） R5年度対応済み ○学内全部署の長で組織される「自己点検評価改善委員会」で、内部質保証に関わる点検と改善の指示を行った。総務主事が委員長となり、学内からの指摘事項をはじめ、認証評価やKIS等での指摘事項に対して、各長がとりまとめた具体的改善事項を明確にした。その方法と手順を組織的に共有した。	—	改善計画の点検及びフィードバックを実施した
	フィードバック			実績報告に記載の内容が確認できた。		改善点に関するフィードバックの実施が確認できた。

		R 3 認証	R 3 外部有識者	R4 KIS	R4教職員アンケート	R4 JABEE
自己点検評価改善委員会	指摘事項	－	－	4.2 【継続的改善】	－	－
	実績報告 2/28迄	－	－	各委員会等の計画に対し、点検とフィードバックを実施し、全学的な改善対応を進めている。	－	－
	フィードバック			自己点検評価改善委員会が、組織的な教育の質保証となるように各委員会に点検改善を統括指示するとともに、その改善事項に対してフィードバックを与えていることを確認できた。		
国際交流推進センター委員会	指摘事項	－	⑤ 学生に主体的に学外実習や留学に取り組んでももらうため、一層の周知を図る。	－	－	－
	実績報告 2/28迄	－	従来からの告知方法に加え、多チャンネルでの告知、昼休みの校内放送も実施した。結果、夏季・春期海外派遣研修において、昨年度より多くの研修参加者があった。	－	－	－
	フィードバック		ホームページ、掲示、Teams、保護者メール配信、構内放送、派遣報告会などの複数の方法で複数回の学内外周知が実施されたことを確認できた。			